

発 行

福井県大野市天神町1番1号  
大野市役所  
電話(代)6-1111  
郵便番号 912

印刷 松浦印刷所



7月の人口の動き

出生	男 24	女 23	計 47
死亡	〃 10	〃 22	〃 32
転入	〃 40	〃 25	〃 65
転出	〃 52	〃 38	〃 90
世帯数	10,318(前月-7)		
人口	42,639(前月-10)		
男	20,593	女	22,046



## お年寄りの手で環境の美化

春日3丁目  
老人クラブ

### 荒地をみごとな花壇に

「この土地は1年前までスキヤ雑草が生い茂って見苦しかったのう」「これで少しは上庄街道を通る人の心の慰めになるやろう」お年寄りたちはジョウロで花に水をやったり、草取りをしながら談笑していました。

ここは春日3丁目の第18区老人クラブ(山崎次郎会長)の花壇で、230平方

の土地にはトレニヤ、サルビア、カンナなどが色とりどりに咲き競っています。

「ことし老人クラブでこの土地を借りましたが、花が育つ土にするまでには苦労しました」と山崎さんは言う。

54人の会員が毎日一輪車で土を運び、整地をしてやっと出来上がった花壇だけに会員の愛着は一しお強く、毎週日曜日

の朝が一せい作業になっていますが、だれかれとなく常に立ち寄り、いつもきれいに手入れされています。

山崎さんは「この花壇は明るいまちづくり運動の一環で、町内の美化はまず年寄りの手で、という意気込みをもっています。来年はもっと工夫して、みんなの憩いの場にしたい」と張り切っています

## おおの城まつり

雨に  
まめ  
けず  
10万人



## 生音頭に感謝の拍手わく



楽しかった城まつりが終わりました。ことしはあまり天候に恵まれませんでした。それでも人出は昨年並みの10万人。各商店街では、それぞれの特色を生かした飾り付けや催し物で「おおのおどり」のふん囲気を盛り上げました。

生音頭の「シッコイナ」や「カンコ踊り」に人気が集り、特に昨年まではともすると踊りの輪が崩れたカンコ踊りも、ことしは実行委員会から配られたうちわを上手に使いながら、素朴なカンコのリズムに浸りながら踊り続けられました。

しかも「シッコイナ」「カンコ踊り」の生音頭が終わるたびに、音頭取りの人たちにねぎらいと感謝の拍手を送るほほえましい光景が見られたのもことしの特徴でした。

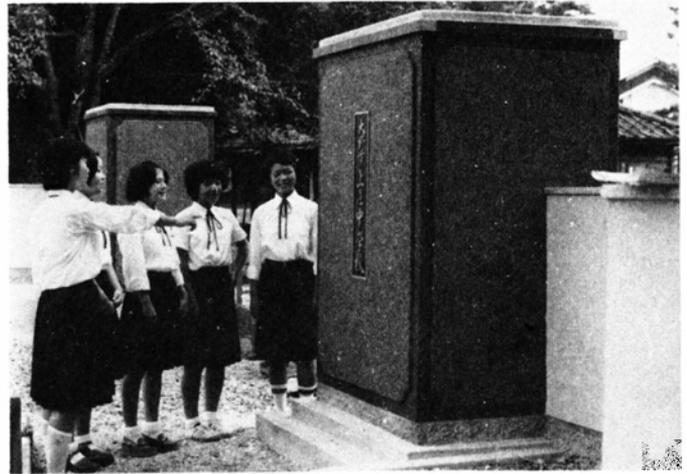
また、市内4中学校のブラスバンド隊による市中パレードと演奏会には例年を上回る5,000人が集まり、若さあふれる演奏やパト娘のはつらつとした演技に魅了されました。

写真左上 越前大野城で行われた美術工芸総合展

写真左下 1,000人の観衆をわかせた夜相撲大会

# 職員と生徒の愛汗精神が実る 手作りの校門 上庄中に完成

上庄中学校の職員と生徒が1か月がかりで校門を造り、8月7日完成式が行われました。渋い茶かっ色のドッシリした門柱に、膚色のそでべいがついた立派なもの。「ふるさとづくり教育」推進の一環として、全職員と生徒の愛校、愛汗精神が実ったもので、各方面から注目されています。



立派に出来上がった上庄中学校の校門

国道 158号線稲郷バイパスの開通によって上庄中学校の新しい通学路が造られました。

これに伴い、今までの校門は裏側に位置する格好になったため、新道の正面に校門を造ろうという話もち上がり、6月から全職員生徒の共同作業が始まりました。生徒は門柱の基礎になる玉石を1人二、三個ずつ持ち寄り、全体で約 500個を集集、職員はコンクリート打ちをして1か月がかりで完成させました。

高さ2m10cm、幅1m20cmの大きな門柱が2本、それに膚色のそでべいが両側に7cm伸びて、とても手づくりとは思えない立派な出来栄です。

同校3年生の乾敏男君は「みんなが纏に汗した成果がこんなにすばらしい校門になり、僕たちの手の跡として後世に残るのは実にうれしいです」と笑みを浮かべていました。

また、斉藤輝夫校長は「創作の喜びと作業で培われる和ほど大切なものではありません。本校は「ふるさとづくり教育」を推進して「愛校、愛土、愛汗」を全職員、生徒の合言葉にしており、校門づくりはその一環です。校門は永く本校の象徴になるでしょう」と話していました



▲城まつり昼の部の庄巻は四中学校合同のプラスバンド。若さあふれる熱演で大かっさいを浴びた。一曲ごとに拍手を送る5,000人の大観衆



豆剣士が多く出場し  
気合の入った剣道大会



稲の種子選別センター

# 4,880万円で完成

種子の生産量は  
県下の四分の一

大野市農協は乾側支所裏に、種子生産供給安定施設の建設工事を総事業費4,880万円で6月から進めていましたが、この程完成し、9月上旬から運転を始めます。

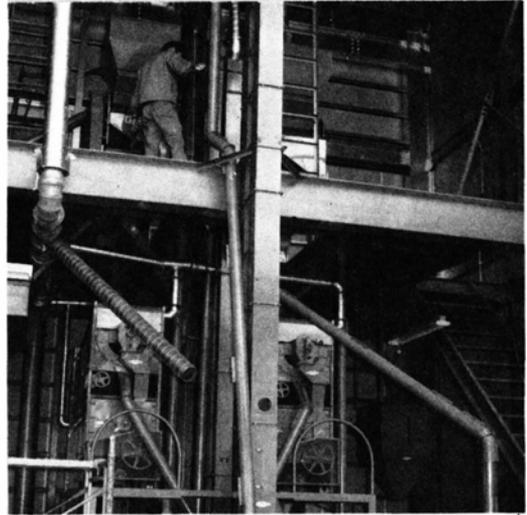
建物は鉄骨平屋一部二階建て延べ373

平方にて、この中には1時間に1.5トンの処理能力をもつ選別機2台と、タンクや計量、包装設備一式などがあります。

この施設は各農家で生産された水稻の種子を粒形と重さを基準に選別し、品質が均一化した良質なものを大量に出荷するために設けられました。

大野市では昭和38年ごろから水稻種子の生産が始まり、昭和47年38戸、48年42戸、49年52戸と増え、去年は90戸で42万キロ<sup>2</sup>の種子が生産されました。この生産高は県下の約4分の1を占め、一大種子生産地になっています。

これからも生産高が伸びる傾向にありますので、これまで使用してきた小規模な施設ではとても農家の需要にこたえられないため、国、県、市の補助を得て建設されました。



市農協乾側支所裏に完成した種子生産供給安定施設

バレーコート  
を  
テニスコートに

## 292万円で改良

市はこのほど292万円をかけて、市役所西側の市営バレーコート2面1,734平方<sup>2</sup>を、散水せん2基がついたテニスコートに改造しました。

最近、中学生、高校生のテニス人口が多くなり、今までの市営テニスコート2面ではとても十分な練習が出来ない状態でした。

今月からは、4面のコートが使用出来ます。

使用希望者は市体育課(6-1111内線406)へ申し込んで下さい。

一方、バレーボールの競技や練習は、各学校の体育館が整備されたのと、有終会館の体育館の修理が進められていますので、これからは屋内スポーツとして、その充実を図っていきます。

## 宝慶寺千本杉林道工事進む

### 森林総合利用エリアの基幹道路に

森林総合利用促進事業の一番手として宝慶寺の千本杉林道新設工事が7月から工費1,800万円で進められています。12月には延長720<sup>2</sup>、幅5<sup>2</sup>の道が出来上がり、これから整備される森林総合利用エリアの基幹道路になります。

森林総合利用促進事業は林産物の生産と自然を生かしたレクリエーション休養の機能を兼ね備えた総合利用エリアづくりを行うもので、昭和51年~53年度の3か年計画で5,800万円をかけ、宝慶寺地係約130<sup>2</sup>にキャンプ場、広場、駐車場、野鳥の森、



12月の完成を目指す千本杉林道工事

きのこの森、山菜の園、クリの園などを造ります。また、来年度にはこのエリアの中に林業振興センターを5,679万円で建設し、林業関係者の研修や休養が出来る施設を設けます。

### 人権を尊重しましょう

人権は自分にだけあるのではなく他人にも自分と等しい価値と重さをもった人権があることを理解しましょう。

## 大野交通路線に京福バスが運行

### 1日からワンマン化、ダイヤも変わる

市民の足として長らく貢献し親しまれてきた大野交通のバスは、9月1日から姿を消し、代わりに京福電気鉄道株式会社のワンマンバスが各路線を走ります。

大野交通は昭和26年に創立されて以来25年間大野市内の交通機関として大きな役割を果たしてきました。

しかし、近年のバス乗客の減少により経営の合理化を余儀なくされ、今回廃線になる森目、金山、阿難祖線を除くすべての路線を京福電鉄に譲り渡しました。

運行内容の変更の主なものは、時刻表が大幅に改正されたこと、各路線の回数が増減があったことなどで、次のとおりです。



8月31日で姿を消した大野交通のバス

堀兼線は1日10往復で、以前とは2往復減りましたが、そのうち福井からの直行が8回、堀兼発の福井行きが4回組み込まれています。

勝山線は往39回復37回で、以前とは7往復増え、始発が5分早くなって5時50分になりました。

六呂師線は以前とは1回多い6往復で

ります。

侍屋敷地は身分によって厳重に区別され、その面積も家格や禄高によって広狭が定まっていました。現在、大野で藩制時代からの侍屋敷の面影を保っているのは水落町の浅山家ただ一軒のようです。武士は屋敷を殿様から拝領して住み明治になって下げ渡されたのですがその当時のままの姿です。

屋敷地としては田村家・内山家・武田家・福田家・深見家等広いものが残っていて、当時の上士、中士、下士等の屋敷の広さはどれ程であったかがしのべられます。



### ④0 旧侍屋敷

#### 水落の浅山家

大野の城下町絵図を見ると侍町と町人町の広さはほぼ同じです。

しかし侍の住居数は350戸前後で、町人の住んでいた三番町と七間町を合せただけの数よりも少いぐらいです。土農工商と言われた時代「商工業者は武士の生活が円滑にいくためにのみ存在価値がある」と考えられていたことがこれでよくわか

その間に2回福井からの直行が入り、午後は福井行きが1回出ます。運行路線は今まで毘沙門通りを通りましたが、これからは国鉄大野駅—市民会館前を経て六呂師に向います。

伏石線は1日5往復で以前の11往復より減り、友兼線は堀兼行きが朝夕1回ずつ運行します。

木本線、大矢戸線、福井大野線は回数に変更がありません。

料金は全路線とも変わりませんが、遠距離軽減方式により直行になる堀兼—福井、伏石—福井間などは今までに比べ割安になります。

今回廃止になる3線のうち、金山線沿線の方々の利便を図るため、金山—伏石間に限り、市は朝夕運行するスクールバスを一般市民の利用に供します。また、森目線沿線の方々のために、伏石線が朝夕1回ずつ富島経由で運行されます。



舗装が完成した下黒谷上黒谷線

### 市道の舗装6,000メートル

道路の整備は市民生活向上の基盤であることから、市は毎年道路の改良舗装には力を入れています。

ことしは極度に財源が窮迫している中で、昨年度並みの1億4,870万円の改良舗装の予算を組み、事業を進めています

これまでに市街地の舗装はほとんど完了したため、ことしは農村部を重点にし改良では「伏石金山桃木桜久保線」「土布子栗原中央土打線」など約30か所延長3,200m、舗装では「大矢戸山下東大呂師線」や「下黒谷上黒谷線」など約30か所6,000mを行っています。

昭和51年4月1日現在の市道総延長は344.7km、このうち舗装道路は113.1km、舗装率は32.8%です。

# “おおらかな国民”が実感

## 「第一回訪ソ婦人の船」団員に聞く



国際婦人年を契機として、ことしから始められた県主催の「第1回訪ソ婦人の船」は、7月22日～8月4日の14日間行われ、30人の団員がナホトカ、ハバロフスク、モスクワ、タリンなどの各市を訪問し友好を深めるとともに国際的視野を広げて帰国しました。大野市から参加した2人の婦人にソ連邦の感想を述べてもらいましたので、その一端を紹介しましょう。

土、日曜日の「赤の広場」では新郎新婦の姿が幾組も見られ、市民の祝福を受けていた。

### 子供に文化活動の習慣づけ

篠地澄子さん (34歳、上舌)

自然の美しい国、人々は陽気でおおらかな心の持ち主だと感じました。

どの街にも緑が多く、ポプラやボダイ樹などの並木が続いており、安らぎのある都市づくりがなされています。



7・8月の2か月間は学校の夏休みです。この期間のうち3週間、子供たちはピョニール(少年団)キャンプで心身の鍛錬をします。大自然の中で伸び伸びとしかも規律ある生活をしており「自然の偉大さ、大切さ」を十分に体得していました。実にうらやましい限りです。

### 「人間愛」が養育の柱

松田清子さん (55歳、上野)

広大な自然にはぐくまれたソ連邦の人々はせっかちなところがなく、実に堂々と生活しているという印象を強く受けました。

婦人の大半が職業人で職種に男女の差別がなく、女性にも重労働者がおれば技術者、管理者もおり能力に応じてそれぞれの地位についています。

職業上の男女平等について日本は大い

に学ばなければなりません。

家庭での家事、育児はやはり婦人の仕事になっているようです。

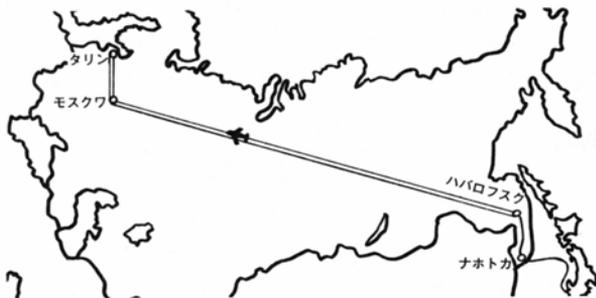
婦人の家事労働軽減のため、洗濯物の

外注、一家での外食などが容易に出来るよう、国策としてそれらの施設を増やしています。

ある主婦は子供に望むこととして、「勤労を愛すること、友だちを愛すること、



両親と老人を愛すること、よき技術者になること」と話しており、社会人としての基本的な「人間愛」を養育の柱としていることに胸を打たれました。



### スマイル

#### 「イトヨ」切手発売

こんどの切手としてもイトヨ

— イトヨ

また、子供のスポーツ、文化活動が盛んでピョニール宮殿を中心にして歌、演劇、絵画など80種類以上の部門が設けられ、子供たちが何かの部に入って研さんしています。ソ連邦の人々は「文化とは自ら行うもの」という考え方です。鑑賞型の文化が多い日本人にとっては、これを範としなければなりません。

## 「これで安心して買物が…」

### 七間通りは生活ゾーン

#### 朝市中は車両制限



車道と区別されて安全に買物が出来る朝市

近在のおばさんたちがトマトや枝豆、キュウリ、花などいろいろな季節の作物を路上に並べ「ねえちゃんトマトやトウキビいらんかのー」と柔和な笑顔で朝市に集まる買物客に呼びかけています。

七間の朝市は品物が

新鮮でしかも安いのが魅力、毎日多くの町の主婦がここに集まってきます。

でも、このにぎわいによって七間通りは大野市で交通事故が多発する区間になっています。

七間商店街協同組合や朝市出荷組合、大野警察署、市の関係者らは朝市のよき伝統を守りつつ事故のない地域にするため、7月21日から五番通り～三番通りの区間を生活ゾーンに指定し、冬期を除く毎日の午前6時から11時までは1.5m以上の貨物、大型、大型特殊自動車の通行を禁止しています。

また、朝市がたつ場所にはポールを立てて車道とはっきり区別し、市民が安全で楽しい買物が出来るように工夫されました。

秋の全国交通安全運動 9月21日～30日

子供とお年寄りを交通事故から守ろう

# スポット

## 少年の非行をなくそう



介入を拒否する排他性の二面を持っています。「私の勉強部屋」がいつしか「私の城」に変わる恐れがあります。

### 内カギ要求には要注意

内カギを要求したり、家族が入ることを拒否するようになったときは城に変化した証拠です。

子供の部屋を見れば子供の心の動きがわかり、日常生活に合った指導と助言の糸口をつかむことが出来ます。

夜遊びで警察に補導され、連絡を受けた親が二階の子供部屋に行ってみると少年はいなかった例や、「お父さん疲れただろうから先にお休み」と言われ、父が床についたことを確かめて、二階から抜け出し自動車を無免許で運転し補導された例などが大野にもあります。

親の過信、放任が子供を非行に走らせたと言えましょう。「部屋」が「城」になったときが危険です。シンナーの乱用場、盗品の隠し場、喫煙室、成人雑誌、マンガ本の乱読場になることがあります。「勉強部屋」が「城」にならないよう、親はき然たる態度で子供に臨み、親と子のきずなを太く、たくましくしていきましょう。

## 「秘密の城」になっていないか

7月号の市報で少年の非行が急増している実態をお知らせしました。今月はその対策として「子供部屋」について考えてみましょう。

### 部屋の要求は独立心の現れ

子供が幼児のときは親や家族の目の届く所で勉強することを好みます。それは自分の行為が認められ、ほめられることを期待するからです。

しかし、学年が進むと自分の部屋を欲しがり、高校生になると母屋以外に部屋を要望することもあります。

子供が自分の部屋を持ちたいと要求するのは、大人たちから独立したい、自由の場を持ちたいとする自主独立精神の現れで、大人への成長の心理的要求です。

子供部屋を与えることは、子供の所有欲の満足、独立性、学習の効果を高める有効な手段です。

所有欲は元来、自分の自由意志を行使出来ることの満足感を得る反面、他人の

